第４４回北海道高等学校弓道選抜大会南北海道大会

兼第４１回全国高等学校弓道選抜大会南北海道地区予選会

大　会　要　項

１　主 催　 　北海道弓道連盟

２　共　　催 　　北海道高等学校体育連盟

３　主 管　 北海道弓道連盟西部地区　北海道高等学校体育連盟弓道専門部

４　後　　援　 　北海道教育委員会　北海道スポーツ協会

函館市教育委員会　函館市体育協会

５　協 力　 　高体連函館支部所属学校弓道部

６ 期 日　 　令和４年１０月２日（日）３日（月）

７　会　　場　　　函館アリーナ武道館弓道場

〒042-0932　函館市湯川町１丁目３２番２号　　℡0138-57-3141

８　競技日程　　【１日目】１０月２日（日）

１）専門委員打合せ　（　射　場　）　　　8:10～ 8:30

２）集合・審判打合せ（　射　場　）　　　8:30～ 9:00

３）監督主将会議　　（　射　場　）　　　9:00～ 9:30

４）競技　　　　　　（個人予選２立）　 10:00～12:30……立射

　　　　　　　　　　（団体予選１立）　 12:30～14:00……立射

　　　　　　　　　　（個人決勝）　　　 14:00～15:00……坐射

５）個人表彰式　　　　　　　　　　　 15:00～15:30

　　　　　　　　　【２日目】１０月３日（月）

１）集合・審判打合せ（　射　場　）　　　8:10～ 8:30

２）競技　　　　　　（団体予選２立）　　9:00～11:30……立射

　　　　　　　　　　（抽選・的替）　　 11:30～12:00

（団体リーグ戦）　 12:00～14:00……坐射

３）団体表彰式　　　　　　　　　　　　 14:30～15:00

９　参 加 料　　１チーム　15,000円　　個人　3,000円

　　　　　　　（同一選手が団体戦と個人戦の両方に登録している場合も、個人戦参加料を要する）

10　編　　成　　１）団体の部は、選手３名・補欠２名以内・介添生徒１名以内・監督１名とする。

２）個人の部は、選手１名・介添生徒１名以内・監督１名とする。

　　※個人の部の出場選手が複数いても介添えは１名以内とする。

３）団体の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、４校以下の場合１校、

５校～８校の場合は２校、９校～１２校の場合は３校、１３校～１６校の場合は４校、

１７校～２０校の場合は５校、２１校以上の場合は６校とする。なお２人団体も参加校として数えることとする。開催地区は、他に男女各１校ずつ参加できるものとする。

４）個人の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、４校以下の場合は４名、５校～８校の場合は６名、９校～１２校の場合は８名、１３校～１６校の場合は１０名、１７校～２０校の場合は１２名、２１校～２４校の場合は１４名、２５校以上の場合は

１６名とする。

11　参加資格　　１）選手は、学校教育法第１条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍

する生徒であること。

　　　　　　　　２）全日本弓道連盟、並びに北海道高等学校体育連盟に加入している高等学校の生徒であること。なお、大会参加時には全日本弓道連盟登録ＩＤ番号が必要である。

３）令和４年度在籍学年が第１学年・第２学年であること。ただし、同一学年での出場は１回限りとする。

　　　　　　　　４）転校後６ヵ月未満の生徒は出場できない。（外国人留学生もこれに準ずる）ただし、一

家転住の場合はこの限りではない。

　　　　　　　　５）全日制・定時制・通信制の混成、及び男女の混成は認めない。

　　　　　　　　６）統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。

７）出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。

12　引率責任者　引率責任者は該当校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、引率責任者と

監督が同一の場合は教員とする。校長から引率を委嘱された部活動指導員（学校教育法施行

規則第78条の二に示された者）も可とする。

13　競技内容　　１）種　目　　近的競技

　　　　　　　　２）種　別　　男子の部・女子の部

　　　　　　　　３）種　類　　団体・個人

　　　　　　　　４）規　格　　的は霞的（36㎝）を使用する。

14　競技規則　　（公財）全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案および北海道高体連弓道競技規則

による。

15　競技方法　　１）団体競技は次の通り行う。

　　　　　　　　　①１団体３名とし、２名は補欠選手とする。なお、先発メンバーは登録順の３名とする。

　　　　　　②予選は１人１２射、合計３６射を行ない、上位４チームを通過とする。

　　　　　　　　　　　（同中の場合は１人１射ずつ、合計３射の競射を行なう。）

　　　　　　　　　③決勝は１人４射、合計１２射のリーグ戦とし、組み合わせは抽選とする。

　　　　　　　　　　　（同中の場合は予選に準じる。）

　　　　　　　　　④順位決定は次による。

　　　　　　　　　　イ）勝ち点の多いチーム。

　　　　　　　　　　ロ）勝ち点の同じ場合は、リーグ戦での合計的中数による。

　　　　　　　　　　ハ）ロ）により決しない場合は、当該チーム同士の対戦成績による。

　　　　　　　　　　ニ）ハ）により決しない場合は、予選での合計的中数による。

　　　　　　　　　　ホ）なおかつニ）により決しない場合は、１人１射の競射による。

　　　　　　　　 ２）個人競技は次の通り行う。

　　　　　　　　　①予選は、１人８射を行ない、男女とも５中以上を予選通過とする。

　　　　　　　　　②８射中５中以上の者が出なかった場合は入賞者なしとするが、全国大会出場者を決める場合は、的中最上位者とする。また、同中者が出た場合は、射詰競射により決定する。

③決勝は１射ずつの射詰競射により順位を決定する。的中を失った同位者の場合は、優勝　および全国出場者を決する以外は遠近競射により順位を決定する。競射においては、原則として９射目以降は24cm星的を使用する。遠近競射による順位決定は射詰競射決定後に行う。

　　　　　　　 　３）競技順序は次の通り行なう。

　　　　　　　　　　１日目　①個人予選１立目（男子から実施する。）　 ②個人予選２立目

　　　　　　　　　　　　　　③団体予選１立目　　　　④個人決勝

　　　　　　　　　　２日目　①団体予選２立目　　　　②団体予選３立目

　③団体リーグ戦

　　　　　　　　４）矢返しは、４ツ矢が終わるごとに行ない、１本ごとの矢返しは行なわない。替矢は各選手２本用意すること。団体リーグ戦で同中競射になった場合の１本目、個人決勝の５本目、筈の損傷で矢番えができないとき等に使用する。

 ５）取矢を必ず行なうこと。

 ６）矢番え後の筈こぼれは無効とする。

　 ７）怪我等で坐射・取矢ができない場合、参加申し込み時に所定の申請書を添えること。

　　　　　　８）競技時間の制限（団体競技のみ実施する。）

①本座において、進行係の合図によって始まり、最後の射手の離れで終わる。

　　　　　　　　　②競技は個人戦の予選および団体戦の予選は立射とする。また、個人戦の決勝および団体戦のリーグ戦は坐射とする。１団体１２射の行射制限時間を立射は６分以内、坐射７分以内とし、立射は５分３０秒、坐射６分３０秒で予鈴の合図をする。

　　　　　　　　　③弦切れ、その他の事故が生じても時間の延長はしない。ただし、審判の指示により競技が停止した時間は制限時間から除外する。追い越し発射は認めない。

　　　　　　　　　④個人競技および順位決定戦等の時間制限のない場合は、「弦音打起し」の競技の間合いを原則とする。

⑤その他については進行係及び審判の指示に従うこと。

　　　　　　　　９）監督は替矢・替弦を持って控えに入る。

　　　　　　　　10）招集

　　　　　　　　　ア　第３控において、選手・監督の確認、ゼッケンおよび服装、弓具の点検をする。

　　　　　　　　　イ　第３控から第２控へ移動する際にいない選手は「その立」に限り失権とする。そのために団体に欠員が生じても欠員のまま団体とする。

　　　　　　　　　ウ　監督については１２で定めた者とする。大会役員の関係上やむを得ない場合は生徒に代行させることも可とする。

16　選手の交代　１）立ち順は、参加申込書に記載された１番から３番までを１団体とし、選手の交代は登録

　　　　　　　　　　者の中から３回まで認める。監督主将会議の際から受け付ける。（交代した選手の再出場は認める）ただし決勝リーグ進出校決定のための射詰競射において交代は認めない。

　　　　　　　　２）選手の交代の届け出は所定の用紙に記入し、第３控に入る（次の競技の３０分前）まで

に監督より交代受付へ届け出ること。

　　　　　　　　３）１回で２人を交代してもそれを１回と数える。また、交代後、再び選手として出場する

　　　　　　　　　　時は、前の立ち順にこだわらない。

　　　　　　　　４）３回の交代をした後、選手に事故が生じ欠場する場合は、欠員のまま団体とする。

17　競技上の諸注意

１）弓具

　　ア　選手は全国高等学校体育連盟弓道競技規則第１３条に定められた弓具を使用すること。

　　イ　押手掛け（指押手を含む）以外の補助具は原則として認めない。

　　ウ　弽の紐は危険防止のため小さく結び、止め具の使用は禁止する。

　　エ　弓および矢に照準・目印をつけてはならない。

　　オ　伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押手にはその他のものをつけてはならない。

　　　＊手首を固定する機能のある補助具（テーピング・サポーター等）は、けが・故障の場合でも認めない。

　　　＊伝統的な押手補助具としては、押手弽（拇指、人差指の２本指と拇指のみの１本指）がある。

　　　＊キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。

　　　＊サポーターの使用は肘のみ認める。色は、白・黒・紺・ベージュとする。

２）服装

　①選手

　　ア　弓道衣は白、袴は黒または紺の無地とし、白足袋を着用する。

　　イ　弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の無地のものとし襟付き・ハイネックは不可とする。

　　ウ　弓道衣に校名・校章および都道府県のシンボルマークを入れる場合は、片袖に限る。ただし、大きさは、縦横１０㎝以内にする。

　　エ　鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。また、校名・校章・氏名に限り入れてもよいが場所は鉢巻の端とする。

　　オ　胸当ては無地とし、校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当ての使用は認めないが、道着の下に装着することまでは咎めない。

　　カ　リボン・ピアス等の装身具類は着用しない。髪留めは黒・茶ゴム程度とする。

②監督

　　ア　監督はIDを首から下げる。

　　イ　射場内での服装は、品位を保ち、短パン、ミニスカートの類は着用しない。

　　ウ　射場内での素足は厳禁とし、靴下等を着用する。

３）ゼッケン

　・選手は次によりゼッケンを着用する。

　　ア　団体戦は、プログラムに登録された番号を表示したゼッケン（個人戦は学校名だけでよい）を右腰前に付ける。ただし、ゼッケンの左端が体の中央になるようにする。

　　イ　選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。

　　ウ　ゼッケンの記載は横１８㎝、縦１２㎝の白の布または紙を使用する。（布または紙をケースに入れることは可）

　　　　「北海道」学校名および男子の選手番号は黒、女子の選手番号は赤で記入する。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  | 18㎝ |  |  |  |  |
| 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  | 北　海　道○　　○　　高　　校１ |  |
|  |  | →黒（なくてもよい） |
| 12cm |  |
|  |  | →黒（「高校」の文字はなくてもよい） |
|  |  |  |
|  |  | →男子は黒、女子は赤 |

４）施設内での壁・柱などを使用した弓張りは禁止とする。

５）フラッシュ撮影は禁止する。

６）的中時の応援の「よし」の発声は禁止し、皆中時の拍手のみとする。

７）常に静粛な環境を維持するように相互に協力してください。

＊その他、必要事項は、「必携」（全国高等学校体育連盟弓道専門部）を参照のこと。また、「必携」

は大会時に持参すること。

18　表　彰　等　１）表彰

①団体の部は、男女とも３位までとする。

②個人の部は、男女とも５位までとする。

２）全国大会出場権

①団体の部は、男女優勝校が全国選抜大会への出場権を獲得する。

②個人の部は、男女とも２位までの者が全国選抜大会への出場権を獲得する。

　　　　　　　　３）東日本大会出場権

男女団体優勝校は東日本高校弓道大会への出場権を獲得する。また今年度は東北ブロック開催のため、南北大会の２位校のリーグ戦における総的中数で上位の学校が第３代表権を獲得する。同中の場合は予選の的中数を加えて上位を決する。

19 申込方法 プログラム作成の都合上、必ず以下のようにして下さい（締切厳守でお願いします）

 　ア　参加選手および参加料の明細を、所定の申込用紙に記入して、

 　　　①メール送信での申し込みをお願いします。 　　　　　　　　９月２１日（水）厳守

 　　　②職印を押した申込書（立射の選手がいる場合は申請書）を郵送すること。

 　　　③参加料は「②」とともに現金書留で郵送してください。 　　　 ９月２３日（金）厳守

 　イ　坐射や取り矢ができない場合は、

 　　　①先天的に身体的障がいがあってできない場合は、参加申込書の備考欄にその旨を記入

 　　　　するとともに、「立射等の申請書」を添えて提出すること。

 　　　②けが等によってできない場合は、事前に「立射等の申請書」を添えて提出すること。

 なお、申し込み後についても、すみやかに行うこと。

 　　 ③必ず事前に書類を提出すること。監督会議当日の口頭による申し込みは受け付けない。

20 申 込 先 ①メール送信 kyudo@ichihako.ed.jp

 なお、メールで書類を送信する場合は次の手順でお願いします。

 ❶市立函館高等学校ホームページからファイルをダウンロードします。

 ❷ファイルに必要事項を入力します。なお、入力時に外字は使用しないでください。原本 に正式な文字を記入してください。なお、プログラム印刷上はパソコンで表記できる文 字を使用します。

 ❸必要事項を入力したファイルを添付したメールを送信します。

 ②郵送　040-0002 北海道函館市柳町１１－５　 ℡0138-52-0099

 　　　　　　　市立函館高等学校　 南北海道弓道大会事務局宛（担当：髙市　道弘）

21 公式練習 会場　函館アリーナ武道館弓道場１０月１日（土）１１時００分～１７時００分

 　　　＊選手は試合用の服装（必ずゼッケンを装着）で練習をすること｡お互いに節度を守ること｡

 　　　＊練習の際は、必ず監督などの責任のある方が射場内につき、危険防止に留意すること。

 　　　＊密になるのを防ぐため、１１時から１４時までは函館・室蘭支部、１４時から１７時までを小樽・札幌支部とします。

22　宿泊弁当　　　別紙（名鉄観光　資料）を参照ください。

23　そ の 他 １）競技は予選はすべて３人立３射場で行います。的間隔１６０㎝となります。決勝はすべ

て３人立２射場で行います。的間隔は１８０cmとなります。

　　　　　　　　 ２）控室は武道館上にあるサブアリーナです。巻藁を３台設置します。控室内では適切な距

　　　　　　 離を保って利用してください。また、本大会は持ち込みの巻藁を置くスペースはありません。

３）昼食は指示された場所でお願いします｡また、全てのゴミの持ち帰りをお願いします｡

 　　　４）各支部の専門委員は、支部大会のプログラム（全ての成績を記録したもの）、

 　　　　 及び大会結果を ９月２１日（水）必着で、大会事務局と道高体連弓道専門部（札幌東

 　　　　　陵高校 山田朋生 先生）宛に各１部ずつデータで送付して下さい。

５）プログラム作成の都合がありますので、参加申込・成績の送付は期日を厳守して下さ

 　　　　　い。

６）大会期間中、弓道場は専有使用のため一般利用はできません。公式練習終了後および

 　　　　　大会初日競技終了後、射場を開放する場合があります。詳細は当日連絡いたします。

 　　　７）大会参加に関して提出される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外

 　　　　　の目的に利用することはありません。

24 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に関する注意事項

 　　 １）新型コロナウイルス感染症予防に関することは次のとおりとします。

・本大会に参加される選手、監督（外部指導者を含む）介添の皆さんは規定による

検温健康チェックをお願いたします。様式につきましては上記ＨＰからダウンロー

ドしてください。

様式１は各自で記入し保管。必要があれば提出を求めることもあります。

様式２は大会当日ごとに受付に顧問より提出すること。

様式３は各自で記入し、顧問は様式２に添付して提出すること。

 ・大会会場に入場される際は手指の消毒とマスク着用をお願いたします。

・選手の競技中マスクについては第２控までは必ず着用するものとし、行射中マスク

着用については各校顧問の判断に委ねるものとします。

・本大会は無観客で行います。申込時に登録した選手・監督・外部指導者・引率・介添生徒のみの入場となります。

【連絡・問い合わせ先 市立函館高等学校 髙市　道弘　 学校代表0138-52-0099】

２）函館アリーナに入場される際には手指消毒とマスクの着用をお願いいたします。

３）選手の競技中のマスクについては第２控までは必ず着用するものとし、行射中のマスクの着用については各校顧問の判断に委ねるものとします。

４）本大会は無観客で実施されます。発行されたIDをお持ちの方以外は入場できません。

　　　　 ５）発熱・咳・咽頭痛等の症状がある場合、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方が

 　　　　　いる場合、過去１４日以内に政府からの入国制限、入国後の観察期間を必要とされて

 　　　　　 いる国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は参加をお控えくだ

 　　　　　 さい。

 ６）当日急に体調不良や発熱症状の者が出た場合は、保護者に連絡するなどして帰宅させ

　　　　　　　　　　 てください。

 　　　７）大会終了後１週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、南北海道大会

 事務局担当者に対し、速やかに濃厚接触者の有無等について報告してください。

 　　　８）提出していただく可能性がありますので、体調管理チェックシートの作成・準備をお

 願いします。回収方法等に関しては、参加校宛にあらためてお知らせします。

 　　　９）その他、会場での指示に従ってください

競技上の諸注意（補足）

１　射場に入場後、弓具（弓、矢および弦等）が破損した場合は交換することができる。ただし替弓具が準備

してある場合に限る。

２　次の矢は無効とし、「はずれ」として扱う。

①矢番え完了（右手を腰にとった時点）後に、弦から筈がこぼれた矢。

②打起し開始後引き直した矢。

③同一射場において前の射手より先に射離した矢。ただし、前の射手が持ち矢を棄権した場合を除く。

④団体競技で制限時間（本鈴）後に射離された矢。なお同時発射も無効とする。

⑤故意に他チームの行射を妨害したと審判が判定した場合。（妨害を受けた選手の引き直しまたは射直しは認める。）

⑥審判の注意を無視して行射した矢。

３　弦切れの場合、４本目を除き、選手は射位に跪坐し、射場進行係が弓を取りに来るのを待つ。弓を渡した

後、切れ弦の処理をする。４本目の場合はならいのごとく処理し退場する。

　　替弦は原則として監督が張るものとする。

４　弓を取り落とした場合、射場進行係の指示に従い処理をする。

５　射位にある射手は口頭、またはその他の方法で助言を求め、または受け取ってはならない。射手が本座

または射位で不必要な声を発したり、または他の射手に対して助言をしてはならない。

６　会場内で不必要な声を発しないこと。的中時の「よし」の発声は禁止し、皆中時の拍手のみとする。

７　矢を落し失権となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾って自分の右側に置く。

８　的中数は看的の○×表示で示す。的中数に異議がある場合は、矢を抜く前に監督が射場進行係に挙手によ

り申し出る。その後の申し出については受け付けない。

９　競技進行中における行射中止の指示は、的前における赤旗の掲示と射場内における進行係の指示によって

　　行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去、係が指示する。

10　同中競射および射詰の時、競射１本目は替矢とする。この時は一矢射終わったら自分の席に戻る。２本

　　目以降の競射・射詰の矢は、矢返しをした矢を使う。競射は一矢射終わるごとに自分の席に戻る。

11　個人競技、退場口の進行係の指示があった場合は、第３控席に待機する。

12　個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係の指示に従うこと。

13　競技場内に第１控を設け、これより先を射場内とする。指定された第３控席で点呼、弓具の点検を行うので、競技進行に合わせて集合する。監督も含め第２控席に移動するまでに集合しない場合は失格とする。

14　第３控席では弓を弓立に置き待機し、第２控席では弓を立てて待機する。

15　監督は、監督章をつけて替矢・替弦を持参して入場する。

16　計時について、立射５分３０秒（坐射６分３０秒）の振鈴で予告し、立射６分００秒（坐射７分００秒）

の振鈴によってその後の矢を失権とする。振鈴は本部席のストップウォッチを基に行う。

17　矢返しは、廊下の付近に設置した矢立てで行うので、速やかに回収すること。

18　競技本部は放送席とし、選手交代については交代受付に提出する。

※　矢摺り籐の長さが６㎝未満のもの、あるいは損傷し、セロテープなどで補修している等の弓は使用しな

いでください。（弓具点検の際に、競技上危険または目印とみなしうる場合は、ガムテープを貼る場合が

あります。）

当番地区からの連絡

1. 本大会は新型コロナウイルス感染防止の観点から無観客試合となっています。保護者や一般の方は武道館及びサブアリーナ（控え室）に入ることはできません。
2. 参加各校の監督、介添生徒及び各校学校長が認めた（参加申込書に記名された）外部指導者にはＩＤを発行し、当日カードを配布します。武道館、サブアリーナに入る際にはそれぞれの受付で担当者のチェックを受けてください。選手はゼッケンをもってＩＤの代わりとします。
3. 外靴について、下足棚を利用することはできますが、紛失防止のため、できるだけ配布するビニール袋に入れて控え場所まで持参してください。袋は回収しませんので大会期間中ご利用ください。できるだけ、各チームで用意してくださると幸いです。

４）　選手の控え場所は、サブアリーナとなっています。譲り合ってお使いください。なお、飲食はアリーナ及び観覧席でお願いします。黙食にご協力ください。

５）　着替えは男女更衣室を利用してください。

６）　壁面を使って弓を張ることを禁止します。選手同士で肩を貸し合うなどして弓を張ってください。

その他、施設・備品の汚損にも注意してください。

７）　立入禁止区域には絶対に立ち入らないでください。

８）　巻藁はサブアリーナに３台設置します。譲り合って怪我をしないように注意して使用してください。

　　　巻藁の持ち込みはできません。

９）　退館時には使用場所の清掃をお願いします。ただし、ゴミ袋などの用意はしませんので、各校で責任を持ってゴミの持ち帰りを行ってください。なお、注文された弁当は渡された場所が回収場所となります。

10）　部旗を貼る場所が会場にはありませんのでご了承ください。

11）　団体戦予選までは３人立３射場で行います。団体戦決勝リーグ戦は的替え後３人立２射場で行います。

12）　フラッシュ撮影は高体連では認めていません。

13）　携帯電話の着信音は競技の妨げになります。マナーモードにするか、電源をお切りください。

14）　函館アリーナ武道館の開館時間は８：００です。それ以前の入館はできません。

15）　駐車場係は配置していません。事故のないように互いに譲り合ってください。

16）　弓具は会場に置いておくことはできません。